

室蘭には、どんな暮らしがあつたの？

炭鉱と同じように、鉄のまちも24時間休むことがありませんでした。機械を止めることがなかった
ので、鉄鋼マンたちは、朝方、昼方、夜方と交代して働いたのです。製鉄所で働く人やその家族がた
くさん住んでいたのです。商店や映画館もいっぱいありました。



「坂は室蘭の生活の中で、日常の風景。
坂の名前から、地域の歴史や
そこで起きた出来事がわかってくるよ。」

◆50年ほど前、北海道で最も人口密度が高かった。

鉄鋼業が最も盛んだった50年ほど前、室蘭は約18万人が暮らす、道内で最も人口密度の高いまちでした。小学生は多いと
きで2万3千人もいて、1600人以上が通うマンモス
小学校もありまし
た。飲食店も働く
人の時間に合わせ
て営業していまし
た。



アーケードのにぎわい(室蘭市提供)

◆室蘭に職人が多かったのはなぜ？

室蘭には、着物などに家紋をつける上絵師、重要文化財の修復を手がける表具師、江戸時代から伝わる工芸菓子職人など、日本の伝統を守る職人たちが、たくさん集まりました。鉄鋼業でうるおった豊かな暮らしや近くに
あった登別温泉街に、職人たちはなく
てはならない存在
でした。



上絵師の仕事

もっと知りたい！「鉄のまち図鑑」

鍛冶屋の道具「ふきさしふいご」

長方形の木箱に取りつけたピストンで風の出し入れを行っていた「ふきさしふいご」。たたら師や鍛冶屋たちが、このふいごをかついで各地を渡り歩いていたそうです。室蘭市民俗資料館には、室蘭の歴史や生活を伝える資料が展示されています。



日本刀をつくる刀匠がいる「瑞泉鍛刀所」

日本の伝統である日本刀をつくる技術を保存するため、1918(大正7)年、日本製鋼所室蘭製作所に瑞泉鍛刀所が建てられました。日本刀の原料から刀に仕上げていく刀匠は、いま5代目です。



◆戦時中、室蘭に攻撃が集中した理由は？

戦時中、室蘭の製鋼所では、大砲など国産兵器をつくっていました。そのため、米軍からの攻撃的になり、鉄道、市街地、港などが空襲を受け、戦艦から860発もの砲弾が撃ち込まれ、たった2日間で、軍関係者以外に500人近い死傷者が出ました。